

## 男性の要介護者衣服検討に関する研究 (1)

## —衣服着用の現状—

○間瀬清美\* 原田妙子\*\* 小町谷寿子\* 石原久代\* (\* 名古屋女大 \*\* 名古屋女大短大)

【目的】これまで介護に関する被服の問題は介護する側に立った研究が多かったため、殆どが介護の現場である施設を対象に行われてきた。しかし介護保険の導入により、家庭の問題としても考えねばならなくなった。また、要介護者の衣服形態は介護する側の利便性のために変えざるをえない場合が多い。男性は女性に比べ、服種が限られているので長年の習慣から着用への拘りも大きいと推察される。しかし介護を前提とした男性の衣服を取り上げた研究は殆ど見当たらない。そこで本報では、着用形態の変化による精神的負担を僅かでも軽減できる介護服を検討するために、まず男性の現在の着用実態および衣服に対する意見を調査した。

【方法】1)調査対象者：中学生以上の男性 1165 名(回収率 72.0%) 2)調査時期：2000 年 11 月 3)調査内容：年齢、業種、居住地域、配偶者の有無等個人に関する 9 項目、職場・学校、街着、家庭、就寝時における着用衣服の状況、着用日数等衣服に関する 6 項目 3)集計：全体の動向をみるために単純集計および年代別・項目別クロス集計

【結果および考察】被験者は東海 3 県を中心に、10 歳代 204 名、20 歳代 235 名、30 歳代 148 名、40 歳代 172 名、50 歳代 258 名、60 歳以上 121 名であり、約 1/3 が会社・工場勤務であった。着用衣服は 30 歳代まで殆どがトランクスを着用し、高齢になる程ブリーフが多くなっている。ランニングシャツは 40 歳以上で多い。また T シャツは 30 歳以上では家庭着として着用しているが、若年層では夏の就寝時にトランクスと組合せて着用する人がパジャマより多い。着用日数は夏より冬の方がやや長く、下着類は 1 日、パジャマは 1～3 日が多い。日常の衣服の選択者は本人が多いが、高齢になるほど妻が増えている。